

【別紙】

(1) 地域別の状況

新型コロナウイルス感染の影響緩和を受け、全ての市町において前年度比が 20% を上回る結果となった。特に豊岡市はスキー場を除いた主な観光地点において前年度数値を上回り 940 千人 (+44.0%) 増となった。(単位：千人)

項目 \ 地域	豊岡市	養父市	朝来市	香美町	新温泉町	但馬
令和4年度	3,078	967	1,882	1,143	935	8,005
令和3年度	2,138	771	1,492	934	721	6,056
増減数	940	196	390	209	214	1,949
増減率	44.0%	25.4%	26.1%	22.4%	29.7%	32.2%

(2) 日帰り・宿泊別の入込状況

日帰り客は、6,365 千人(前年度比+29.8%)、宿泊客数は、1,640 千人(+42.1%)とそれぞれ増加しており、前年度と比較して宿泊客の全体比 (+20.5%) が上昇している。

(単位：千人)

区分	令和4年度		令和3年度		増減数	増減率	
	入込客数	全体比	入込客数	全体比			
但馬	総入込数	8,005	100.0%	6,056	100.0%	1,949	32.2%
	日帰客	6,365	79.5%	4,902	80.9%	1,463	29.8%
	宿泊客	1,640	20.5%	1,154	19.1%	486	42.1%
豊岡市	総入込数	3,078	100.0%	2,138	100.0%	940	44.0%
	日帰客	2,161	70.2%	1,486	69.5%	675	45.4%
	宿泊客	917	29.8%	652	30.5%	265	40.6%
養父市	総入込数	967	100.0%	771	100.0%	196	25.4%
	日帰客	816	84.4%	711	92.2%	105	14.8%
	宿泊客	151	15.6%	60	7.8%	91	151.7%
朝来市	総入込数	1,882	100.0%	1,492	100.0%	390	26.1%
	日帰客	1,777	94.4%	1,419	95.1%	358	25.2%
	宿泊客	105	5.6%	73	4.9%	32	43.8%
香美町	総入込数	1,143	100.0%	934	100.0%	209	22.4%
	日帰客	878	76.8%	705	75.5%	173	24.5%
	宿泊客	265	23.2%	229	24.5%	36	15.7%
新温泉町	総入込数	935	100.0%	721	100.0%	214	29.7%
	日帰客	733	78.4%	581	80.6%	152	26.2%
	宿泊客	202	21.6%	140	19.4%	62	44.3%

(3) 目的別の入込状況

歴史・文化部門の入込数は香美町の餘部橋梁の増加等により、前年度比 543 千人(+40.6%)の増加となっている。また、行祭事・イベントはコロナ禍に中止となっていたものが再開されてきたため、入込数は 343 千人(+1106.5%)の増加となっている。

(単位：千人)

目的	年度	令和4年度		令和3年度		増減	増減率
		入込客数	全体比	入込客数	全体比		
総入込客数		8,005	100.0%	6,056	100.0%	1,949	32.2%
自然		358	4.5%	266	4.8%	92	34.6%
歴史・文化		1,882	23.5%	1,339	22.9%	543	40.6%
温泉・健康		1,852	23.1%	1,489	23.9%	363	24.4%
スポーツ・レクリエーション		1,502	18.8%	1,177	18.3%	325	27.6%
都市型観光		290	3.6%	240	4.1%	50	20.8%
その他(道の駅等)		1,747	21.8%	1,514	25.7%	233	15.4%
行祭事・イベント		374	4.7%	31	0.3%	343	1106.5%

(単位：千人)

区分	但馬	豊岡市	養父市	朝来市	香美町	新温泉町
総入込客数	8,005	3,078	967	1,882	1,143	935
自然	358	200	3	83	70	2
歴史・文化	1,882	983	35	446	352	66
温泉・健康	1,852	998	173	136	84	461
スポーツ・レクリエーション	1,502	521	355	184	247	195
都市型観光	290	135	0	0	136	19
その他(道の駅等)	1,747	50	393	958	244	102
行祭事・イベント	374	191	8	75	10	90

(4) 四季別の入込状況

春期及び夏期は、前年度に発令されていた緊急事態措置やまん延防止等重点措置の影響がなくなったことから、それぞれ 845 千人(+90.3%)、737 千人(+47.1%)となった。冬期は、雪不足等の影響からスキー客の入込数が 84 千人(▲17.5%)の減少となっているものの、まん延防止等重点措置の影響がなくなったことにより、200 千人(+11.6%)の増加となった。

(単位：千人)

四季	年度	令和4年度入込客数		令和3年度入込客数		増減数	増減率
		入込客数	全体比	入込客数	全体比		
総入込客数		8,005	100.0%	6,056	100.0%	1,949	32.2%
春(4月～6月)		1,781	22.2%	936	15.5%	845	90.3%
夏(7月～9月)		2,301	28.7%	1,564	25.8%	737	47.1%
秋(10月～12月)		1,992	24.9%	1,825	31.6%	167	9.2%
冬(1月～3月)		1,931	24.1%	1,731	28.6%	200	11.6%

(単位：千人)

区分	但馬	豊岡市	養父市	朝来市	香美町	新温泉町
総入込客数	8,005	3,078	967	1,882	1,143	935
春(4月～6月)	1,781	724	204	444	199	210
夏(7月～9月)	2,301	1,022	236	506	255	282
秋(10月～12月)	1,992	706	216	557	272	241
冬(1月～3月)	1,931	626	311	375	417	202

(5) 主な観光拠点の入込客数

緊急事態措置やまん延防止等重点措置の影響がなくなったことから、入場制限等を行っていた施設については前年度より入込数が大幅に増加している。一方、雪不足等に悩まされたスキー場は、一時営業休止となっていたことなどが影響し、前年度より入込数が減少した。

(単位：千人)

観光地名	所在地	入込数		増減数	増減率
		令和4年度	令和3年度		
城崎温泉 (外湯めぐり)	豊岡市	722	501	221	44.1%
湯村温泉 (外湯を含む)	新温泉町	321	252	69	27.4%
余部橋梁	香美町	256	172	84	48.8%
出石町内鑑賞	豊岡市	214	164	50	30.5%
神鍋高原 (ゴルフ・テニス)	豊岡市	176	110	66	60.0%
但馬牧場公園	新温泉町	157	151	6	4.0%
竹田城下町 (旧木村酒造場EN)	朝来市	147	118	29	24.6%
玄武洞公園	豊岡市	141	92	49	53.3%
浜坂・七釜温泉 (4施設)	新温泉町	140	125	15	12.0%
竹田城跡	朝来市	114	77	37	48.1%
氷ノ山・ハチ高原・東 鉢伏(スキー場)	養父市	112	119	▲7	-5.9%
ハチ北高原・スカイバレイ (スキー場)	香美町	110	147	▲37	-25.2%
但東シルク温泉	豊岡市	108	95	13	13.7%
但馬楽座	養父市	89	78	11	14.1%
神鍋高原 (スキー場)	豊岡市	84	140	▲56	-40.0%
よふど温泉	朝来市	80	73	7	9.6%

【但馬地域観光客入り込み状況】

年		入込数（千人）		宿泊客（千人）		
		人数	前年比	人数	前年比	入込数に 対する割合
S60	1985	7,606		3,103		40.8%
S61	1986	7,565	99.5%	3,164	102.0%	41.8%
S62	1987	7,612	100.6%	3,096	97.9%	40.7%
S63	1988	7,349	96.5%	3,095	100.0%	42.1%
H1	1989	8,229	112.0%	3,234	104.5%	39.3%
H2	1990	8,941	108.7%	3,521	108.9%	39.4%
H3	1991	9,312	104.1%	3,622	102.9%	38.9%
H4	1992	9,372	100.6%	3,382	93.4%	36.1%
H5	1993	9,508	101.5%	3,239	95.8%	34.1%
H6	1994	13,103	137.8%	4,009	123.8%	30.6%
H7	1995	11,483	87.6%	3,245	80.9%	28.3%
H8	1996	10,826	94.3%	3,031	93.4%	28.0%
H9	1997	10,121	93.5%	2,800	92.4%	27.7%
H10	1998	10,002	98.8%	2,670	95.4%	26.7%
H11	1999	9,927	99.3%	2,641	98.9%	26.6%
H12	2000	10,446	105.2%	2,654	100.5%	25.4%
H13	2001	10,037	96.1%	2,551	96.1%	25.4%
H14	2002	9,986	99.5%	2,423	95.0%	24.3%
H15	2003	9,932	99.5%	2,386	98.5%	24.0%
H16	2004	9,593	96.6%	2,326	97.5%	24.2%
H17	2005	9,960	103.8%	2,309	99.3%	23.2%
H18	2006	10,131	101.7%	2,291	99.2%	22.6%
H19	2007	9,982	98.5%	2,222	97.0%	22.3%
H20	2008	9,544	95.6%	2,114	95.1%	22.2%
H21	2009	9,307	97.5%	2,030	96.0%	21.8%
H22	2010	8,339	89.6%	1,928	95.0%	22.1%
H23	2011	8,361	100.3%	1,852	96.1%	22.2%
H24	2012	9,993	119.5%	1,936	104.5%	19.4%
H25	2013	10,635	106.4%	2,031	104.9%	19.1%
H26	2014	10,762	101.2%	2,130	104.9%	19.8%
H27	2015	10,331	96.0%	2,062	96.8%	20.0%
H28	2016	10,118	97.9%	2,071	100.4%	20.5%
H29	2017	10,094	99.8%	2,064	99.7%	20.4%
H30	2018	9,888	98.0%	2,002	97.0%	20.2%
R1	2019	9,409	95.1%	1,920	95.9%	20.4%
R2	2020	5,779	61.4%	1,061	55.3%	18.4%
R3	2021	6,056	104.8%	1,154	108.8%	19.1%
R4	2022	8,005	132.2%	1,640	142.1%	20.5%